

和歌山県名匠

たま い また じ
玉 井 又 次

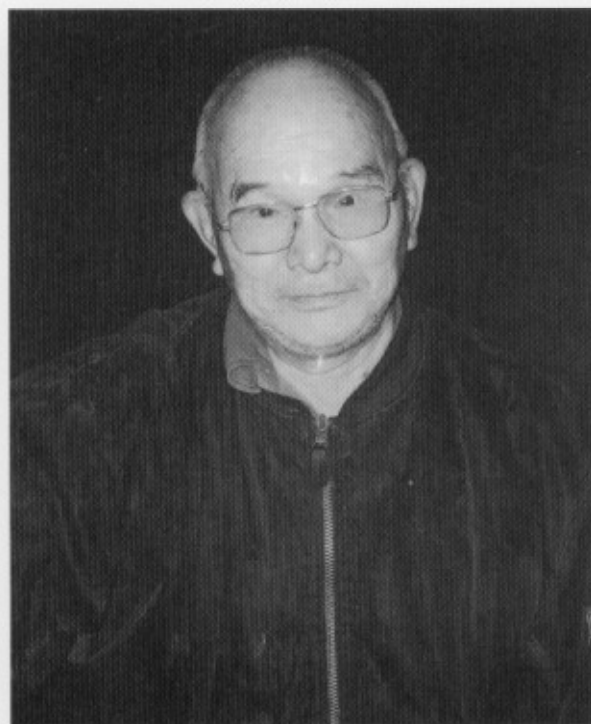
■経歴及び業績

大正15年日高郡清川村で生まれる。昭和13年に製炭業に就くが、昭和15年に海軍に入隊。昭和23年に復員後、日置川町に居を定め、紀州備長炭の製炭を始める。以後、西牟婁木炭協会、和歌山木炭協会、日置川町木炭生産組合の役員を歴任している。

紀州備長炭の炭窯構築法・製炭技術・炭質は、県内だけではなく、全国的に有名で、作業工程の中で炭窯に空気を送り込み、窯の内部の温度を1000度以上にする「精煉」の巧拙が炭の良し悪しを決める。しかし、窯の内部は見えないため、気象条件を勘案しながら、窯から出る煙の色と匂いで炭の状態を判断し、作業を行う。これには、長年の経験と勘、熟練した技術が必要になる。氏は、平成4年に紀州備長炭指導製炭士の認定を受け、その卓越した技術が高く評価されている。

また、内弟子数名を1～2年間窯場に宿泊させて製炭技術を教えるなど、後継者の育成に情熱を傾け、体験型観光として炭焼き体験を一般の人にも指導するなど、紀州備長炭の普及にも尽力している。

平成2年に「県知事感謝状」、平成6年に「県知事表彰（農林功劳）」、平成7年に日本特用林産振興会から「特用林産功劳者賞」を受賞し、平成14年には（社）国土緑化推進機構から「森の名手・名人100人」に選ばれている。



職 種：紀州備長炭製炭士